

2025 年度の項目別の自己評価表

日本工学院専門学校

※本表は 2026 年 3 月 31 日現在の状況に基づき作成しています。

1. 学校の教育目標

本校は、「理想的学びは理想的環境にあり」の理念のもと、「若者の持つ夢を、技術という生きる力に育み、豊かな未来の創造に寄与する」ことをミッションとしている。建学の精神である「創意工夫」と「開拓者精神」を基盤に、専門知識・技術に加え、人間力や社会人基礎力を備えた実践的専門職業人の育成を目指している。また、「若きつくりびと」の育成を教育活動の中心に据え、教育設計図に基づく体系的な学びと実践教育を通じて、専門力・課題解決力・コミュニケーション力の向上を図っている。さらに、産学連携教育や地域連携活動（大田区との多角的な連携等）、学科横断型プロジェクト「Vision Craft」などを通じて、社会に新たな価値を創造できる人材の育成を推進している。

2. 本年度に重点的に取り組んだ目標・計画

2025 年度は、教育の質向上と社会環境の変化への対応を図るため、以下の事項を重点的に推進した。

- ① 教育設計図、シラバスおよび授業評価を活用した教育の質保証
- ② 各学科の専門分野に応じた AI 教育の推進
- ③ 2026 年度の単位制導入に向けた教育課程および運営体制の整備
- ④ 社会や産業界のニーズに対応した学科再編および教育改革
- ⑤ 多様化する学生への支援および留学生支援体制の強化
- ⑥ DX および AI 活用による学校運営・業務改善の推進

2. 評価項目の達成及び取組状況

（1）教育理念・目標

自己評価：4 / 学校関係者評価：4（委員全員一致）

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

①課題

【1】先端技術・職業倫理教育の推進

AI 技術の飛躍的進展や産業構造の変化に対応した教育内容の継続的な見直しが必要である。

各業界の有識者やパートナー企業との連携を深め、先進技術と職業倫理を両立させた「次世代型クリエイター・エンジニア」の育成を推進する必要がある。

【2】多国籍化する留学生への総合支援

留学生の増加（ミャンマー、中国、韓国、台湾、モンゴル等）に伴い、日本語能力の個人差や生活文化の違いに対応した総合的な支援（日本のルール・マナー指導、生活・就職支援等）の充実が求められている。

【3】単位制導入に伴う柔軟な教育体制の構築

2026 年度からの単位制導入を活用し、学生一人ひとりの学びの選択肢を拡大。大学編入やインターンシップ等とも柔軟に結びつけられる教育体制を構築する必要がある。

【4】体験型募集戦略の定着

少子化が進む中、従来の広報手法から脱却し、業界有識者講義や現地見学会を取り入れた「体験型募集」など、志願者に魅力を直接届ける募集戦略の定着を図る必要がある。

②今後の改善方策

【1】一流企業・業界団体との連携による教育改善

教育設計図およびシラバスの継続的な見直しを実施。一流企業・業界団体（ANA・JAL グループ、Blackmagic Design、IJ、日本ハッカー協会、AiHUB 等との連携を通じ、社会ニーズに即応した教育を展開する。

【2】最先端技術（生成 AI 等）と職業倫理教育の強化

生成 AI をはじめとする最先端技術の導入と、それに伴う職業倫理教育を全学科で強化し、変化の激しい時代を生き抜く実践的人材を育成する。

【3】単位制を活用した教育改革の推進

単位制導入を契機に、学科横断履修、選択科目、インターンシップ等の充実を図り、総合専門学校としての強みを最大限に活かした教育改革を推進する。

【4】留学生支援・文化交流体制の強化

日本語学習やキャリア支援の強化に加え、日本の習慣・ルールの指導を徹底する。
国際交流サロン等を活用し、生活支援および文化交流体制の強化を図る。

③特記事項

体系的教育と「Vision Craft」による価値創造

教育設計図に基づく体系的教育と、先進企業・業界団体と連携した先端教育を推進。

学科横断型プロジェクト「Vision Craft」を通じ、学科を超えた協働によるビジネスモデル考案など、新たな価値創造に挑む環境を整備している。

社会変化に対応した積極的な新設学科展開（蒲田校独自のラインナップ）

社会・産業構造の急変に対応するため、積極的なスクラップ＆ビルドを推進。以下の魅力的な学科を展開している。

グローバルアニメクリエイター科

文化庁「文化芸術活動基盤強化基金」に採択された先進教育。

映像クリエイター科

Blackmagic Design 社（DaVinci Resolve アカデミックパートナー）と連携。

エアポートスタッフ科

羽田空港近接の立地を活かし、ANA/JAL グループや空港グランドハンドリング協会と連携。

サイバーセキュリティ科

IJ や日本ハッカー協会等と協働し、実践的攻防実習と職業倫理を体系的に提供。

(2) 学校運営

自己評価：4 / 学校関係者評価：4（委員全員一致）

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

①課題

【1】新学科開設・教育改革を推進するための組織マネジメント強化

新設学科の円滑な立ち上げ、単位制導入、デジタル化推進など教育環境が大きく変化する中、学校目標と各部署・個人の目標を連動させた組織運営をさらに強化し、PDCA サイクルの実効性を高める必要がある。

【2】業務効率化および DX 推進:

学生支援や留学生対応の多様化等に伴い教職員の負担が増加する中、新規 IT ツール（ZOOM フォン、Google/Slack、新労務管理システム等）を有効活用し、業務改善と労務管理の適正化を推進する必要がある。

【3】教職員育成および組織力向上

各業界の先進企業や有識者とのスムーズな連携・カリキュラム構築に対応できるよう、教職員の指導力および外部連携能力の向上を図る。

【4】人事・給与制度の継続的な見直し

人事・給与規程の適切な運用とともに、社会情勢や働き方改革を踏まえた制度の見直しを継続する。

②今後の改善方策

【1】目標管理制度の充実

新設学科の定着と単位制移行を重点目標に掲げ、学校・カレッジ・学科・個人の目標を連動させた目標管理制度を活用する。

【2】業務改善および DX の推進

導入した ZOOM フォンや労務管理システム等の定着を図り、会議運営・事務手続きの効率化を進め、働きやすい環境と厳格な勤怠管理を両立させる。

【3】教職員研修の充実

最先端技術（生成 AI、セキュリティ等）や業界動向に関する教員研修を実施し、指導力の向上と教育内容の刷新を継続する。

【4】人事・給与制度の見直し

社会環境や多様な働き方に対応した規程・制度の適正な運用と見直しを行う。

③特記事項

校長・副校長の新しい運営体制のもと、学校・カレッジ・学科の目標を連動させた目標管理制度を運用している。

新設学科の開設や公的補助金事業（文化庁事業等）の受託運営に向け、産官学連携を迅速に実行できる組織体制を整備している。

キャンパス内のインフラ整備（全域 Wi-Fi 化、Google/Slack の導入、Web 面談ブースの設置等）や ZOOM フォン導入、新労務管理システムの刷新により、業務の効率化と労働環境の適正化を推進している。

（３）教育活動

自己評価：４／学校関係者評価：４（大多数が「４」、一部「３」）

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

①課題

【１】先端技術を取り入れたカリキュラムの継続的更新

生成 AI を用いたアニメ制作（グローバルアニメクリエイター科）や、AI 時代のサイバー攻防実習（サイバーセキュリティ科）など、時代の先を行く教育プログラムを業界トップ企業と連携して安定的に運用・更新していく必要がある。

【２】AI・IT 時代に対応した教育の充実

全学科での PC 必携化に伴い、各専門分野での PC・AI 活用やデジタル技術を取り入れた授業展開・実習環境の整備を進める必要がある。

【３】単位制導入に伴うカリキュラム編成

2026 年度からの単位制導入に伴い、学生自らが考え履修を選択できるカリキュラム構築と、現地実習・インターンシップ等の単位認定化への円滑な移行が必要である。

【４】安全に失敗できる実践環境の構築

サイバー攻防実習をはじめ、実践的なシミュレーションが可能な実習環境の質を高め、試行錯誤を通じて深い技術と倫理観を身につけさせる。

②今後の改善方策

【１】トップパートナー企業・有識者との連携強化

ANA・JAL グループ、Blackmagic Design、IIJ、AiHUB 社等のカリキュラムアドバイザーや業界関係者との連携会議を定期化し、実務に即した最新授業プログラムを展開する。

【２】PC 必携化と AI 教育の定着

学生個人の PC 所有環境を活用し、ICT・AI を積極的に取り入れた実践教育を展開する。

【３】単位制を活用した学びの展開

単位制への移行を機に、エアポートスタッフ科の羽田エリア体験型実習をはじめとする現地実習やインターンシップを単位として認め、実践教育を拡張する。

【4】産学連携・企業マッチングの強化

卒業展での体験型展示や企業連携ブースの設置、イベント・ハッカソン（Hack Fes 等）への参加を通じ、外部評価を取り入れた授業改善を行う。

③特記事項

画期的な産学連携・新学科教育プログラムの構築

グローバルアニメクリエイター科: 文化庁「文化芸術活動基盤強化基金」採択事業。AiHUB 社（新井モノ氏）、AndIdea 社（852 話氏）、Hakushi 氏らをアドバイザーに迎え、5 年後の生成 AI 時代に対応する 2031 年仕様のクリエイターを育成。

映像クリエイター科: Blackmagic Design 社の「DaVinci Resolve アカデミックパートナー」として、企画・撮影・編集・完成を一人で完結できるオールラウンドな映像プロを育成。

エアポートスタッフ科: ANA グループ、JAL グループ、空港グランドハンドリング協会との強力な連携により、羽田エリアでの現場体験実習や最先端技術を取り入れた都市型教育を展開。

サイバーセキュリティ科: 日本ハッカー協会「Hack Fes2026」に IIJ のセキュリティエンジニアと登壇決定。IIJ と協働した実践的攻防実習環境を構築し、AI 技術と強い職業倫理を併せ持つ人材を育成。

学科横断型プロジェクト「Vision Craft」やホテル・観光分野でのシェラトンホテル提案など、企業・地域と連動した課題解決型学習を推進している。

（4）学修成果

自己評価：4 / 学校関係者評価：4（委員全員一致）

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題と今後の改善方針

【1】新学科における学修成果・就職実績の早期確立

エアポートスタッフ科やサイバーセキュリティ科をはじめとする新設・改組学科において、業界直結の実習成果を早期に上げ、アドバンスト・エッセンシャルワーカー等の高付加価値な就職・キャリア形成に繋げる。

【2】休学・退学防止に向けた早期支援:

「LINK! 日本工学院」等を活用した出席・成績データのリアルタイム把握と、教務・学生課・保護者の連携により手厚いフォロー体制を維持・強化する。

【3】卒業生ネットワーク（OBOG）の活用:

全国の校友会や OBOG との繋がりを募集・教育活動（体験入学での OBOG 講義等）へ積極的に還流させる仕組みを定着させる。

② 特記事項

高い就職実績と改善傾向

就職率は 97.5% (IT・テクノロジー系をはじめ高水準) を維持し、早期フォローにより退学率は 4.2% へ低減している。

成果発表と業界評価

ミュージックカレッジ「リアルドリームス」や体験型へ刷新された卒業展において、学生の作品やビジネスモデル提案（サブスクモデル等）が業界関係者から高い評価を受け、デビューや直接就職を獲得している。

（５）学生支援

自己評価：４ ／ 学校関係者評価：４（委員全員一致）

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

① 課題と今後の改善方針

【１】 留学生支援体制のさらなる強化

激増するミャンマー人留学生をはじめ、非漢字圏を含めた留学生に対する生活習慣・日本の規律指導や、キャリアサポートセンターを中心とした就職支援・ビザ関連支援の充実を図る。また、ハラル対応や祈祷場所などの生活面での環境配慮についても検討を進める。

【２】 多様な学生への配慮

経済的支援や合理的配慮が必要な学生に対し、学内奨学金制度等の活用や個別の相談体制を一層充実させる。

② 特記事項

就職・面談環境のデジタル化

学内 Web 面談ブース（７ブース）の安定運用により、オンライン採用面談等を円滑にサポートしている。

保護者連携と通知のデジタル化

ポータルアプリ「LINK！日本工学院」により、成績・出席のタイムリーな共有とペーパーレス化を実現している。

充実した生活・奨学支援

「若きづくりびと奨学金」や国際交流サロンでの多彩な異文化理解イベント（浴衣着付、七夕、クリスマス、サッカー観戦等）を通じ、留学生を含む全学生のキャンパスライフを強力に支援している。

(6) 教育環境

自己評価：4 / 学校関係者評価：4（委員全員一致）

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題と今後の改善方針

【1】新学科・先端教育に対応した高度実習環境の整備

生成 AI アニメ制作、DaVinci Resolve 映像編集、サイバー攻防実習、空港グランドハンドリング体験実習に対応する最新設備・ソフトウェア・ネットワーク環境を計画的に導入・維持管理する。

【2】ICT インフラの安定運用

全学科 PC 必携化に伴い、キャンパス全域 Wi-Fi の帯域拡張・セキュリティ強化を推進する。

② 特記事項

キャンパス全域 Wi-Fi 化、Google・Slack 導入による共有ドライブ環境、全学科 PC 必携化の推進など、時代を先取りした ICT 基盤を確立している。

羽田エリアでの実習フィールド活用や、安全に失敗できるサイバー攻防実習環境など、新学科に対応した先進的な学習環境を構築している。

(7) 学生の受入れ募集

自己評価：4 / 学校関係者評価：4（大多数が「4」、一部「3」）

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題と今後の改善方針

【1】**新体験入学スタイルの定着と展開:** 従来の募集方法から脱却し、志願者に魅力を直接届けるスタイル（OBOG や業界有識者による特別講義、現地見学会を取り入れた期待感を高める体験入学プログラム）を全学科へ波及・定着させる。

【2】**新設学科の強みの訴求:** 文化庁採択事業（アニメ）や ANA/JAL 連携（エアポート）、IJJ/ハッカー協会連携（セキュリティ）といった強力な広報フックを活かし、質の高い志願者層の獲得を目指す。

② 特記事項

定員に対して高い充足率を維持しており、依然として堅調かつ高い募集実績を収めている。

Web 入試（スマホ・タブレット対応）の導入により志願者の利便性向上と手続きのデジタル化を進めている。

OBOG・業界有識者の講義や現場見学を盛り込んだ体感型オープンキャンパスへの刷新を推進している。

（８）財務

自己評価：４／学校関係者評価：４（委員全員一致）

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

① 課題と今後の改善方針

文化庁補助金等の外部資金を適切に管理・執行するとともに、新学科設置や ICT 設備投資を踏まえた効率的な予算編成を行い、健全な財務基盤を維持する。

② 特記事項

片柳学園の強固な財務基盤のもと適正な予算執行を行っている。公認会計士監査・内部監査・外部監査を厳格に実施している。

（９）法令等の遵守

自己評価：４／学校関係者評価：４（委員全員一致）

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

① 課題と今後の改善方針

新先進領域（生成 AI 活用、サイバー攻撃・倫理問題等）を取り扱う教育内容の拡大に伴い、著作権法・情報セキュリティ・知的財産権等のコンプライアンス教育を徹底する。2026 年度単位制移行に向けた設置変更手続き等を適正に行う。

② 特記事項

法令遵守・個人情報保護を厳格に実施。サイバーセキュリティ科等において「先進領域における職業倫理」を教育課程の中心に据えるなど、高い社会的倫理観の醸成に取り組んでいる。

（１０）社会貢献・地域貢献

自己評価：４／学校関係者評価：４（委員全員一致）

適切…４、ほぼ適切…３、やや不適切…２、不適切…１

① 課題と今後の改善方針

大田区や地元産業界（大田工業連合会等）、文化庁などの公的機関との強固な連携を活かし、本校の高度な専門教育資源を地域社会や産業界の発展へ還元するプロジェクトを拡大する。

② 特記事項

大田区・公的機関との重厚な連携体制:

文化庁補助金事業（「文化芸術活動基盤強化基金」クリエイター等支援事業）への採択・実施

「おおた大使」（国際都市・多文化共生推進課）への留学生参画

「おおたものづくり工房」（大田区、大田工業連合会等との連携）

「おおた未来学科」（大田区教育委員会）

「みらいを創るこども応援プロジェクト」など、大田区の行政・産業・教育と深く連携した地域貢献を展開している。

以上